

ALEXANDRE THARAUD

meets

ERIK SATIE

アレクサンドル・タローが描く

エリック・サティの世界

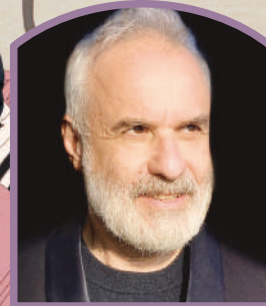
パリのエスプリ薫る舞台

ことば、ピアノ、歌で紡ぐ

風変りな男の人生観



©Marco Borggreve



ピアノ・構成

アレクサンドル・タロー
ALEXANDRE THARAUD, PIANO

テノール

ジャン・ドゥルスクルーズ
JEAN DELESCLUSE, TENOR

語り(エリック・サティ役)

泉倉龍大
RYUDAI ONIKURA, ACTOR

登場する
曲目(予定)

エリック・サティ

ピアノ曲

ばう十字団のファンファーレより / ひかりびた胎児 / グノシエンヌ第1番、3番、5番 /
ばう十字団の最初の思想 / ジムノペディ第1番

歌曲

男寡 / 3つのメロディ(青銅の像、伊達男、帽子屋) /
潜水人形より / エンパイア劇場のプリマドンナ / いいとも、ショショット

上演時間
約75分
休憩なし

2023. 10/15(日)

2:00PM開演 (1:30PM開場)

A¥5,000 B¥4,000 (税込/全席指定)

兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22阪急西宮北口駅南改札口スグ/JR西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

一般発売

6/25
(日)

芸術文化センター
チケットオフィス

インターネット予約

※窓口での販売(残席がある場合)は6/27(火)より

0798-68-0255

(10:00AM-5:00PM 月曜休み ※祝日の場合翌日)

<https://www.gcenter-hyogo.jp>

芸術文化センター会員
先行予約受付開始

6/24(土)

※未就学児はご入場いただけません。
※やむを得ない事情により、出演者・曲目等が
変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。



兵庫県立
芸術文化センター



主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

ALEXANDRE THARAUD meezts
ERIK SATIE

つかめそうでつかめない 空を舞う、ことばと音楽

アレクサンドル・タローが描く『エリック・サティの世界』

ユニークなアプローチで唯一無二の世界を築くフランス人ピアニスト、アレクサンドル・タロー。そのタローが本国フランスをはじめヨーロッパ各国で公演をしてきた特別企画『エリック・サティの世界』を、いよいよ日本初披露します。

フランスを代表する作曲家の一人であり、「音楽界の異端児」としても知られるエリック・サティは、「梨の形をした3つの小品」「ひからびた胎児」など奇妙キテレツな題名の作品が多いことでも有名ですが、詩や著作も数多く残しています。

今回の企画では、サティの音楽と文学をタロー独自の視点で組み合わせ、サティの魅力により深く迫る舞台作品をお届けします。音楽は、タローによるピアノと、タローが信頼を寄せ共演を重ねるフランス人テノール歌手ジャン・ドゥルスクルーズによる歌で、本場フランスの薫りまでお届けできることでしょう。サティ自らが著したことばは、五十路のサティに扮する俳優・鬼倉龍大が日本語で語ります。

100年の時を超えてエリック・サティに出逢う、またとない機会!風変わりな男のおしゃべりにどうぞお付き合いください。

「ジュ・トゥ・ヴ」「ジムノペディ」で知られる、フランスの作曲家・ピアニスト。伝統的な作曲法から外れ、行動も奇抜であったことから、しばしば“音楽界の異端児”と評された。無調音楽の先駆けとして、ラヴェルやドビュッシーなどの音楽家にも大きな影響を与えている。舞台作品も手がけ、ピカソ、コクトーらとバレエ・リュス公演『パレード』を成功させた。彫刻家ブランクーシ、写真家マン・レイ等、芸術家との交流からも様々な作品を生み出している。

エリック・サティ
(1866-1925)



©Marco Borggreve

アレクサンドル・タロー(ピアノ) ALEXANDRE THARAUD, PIANO

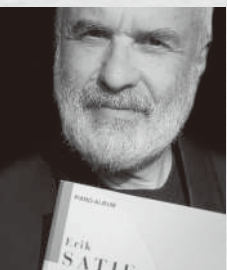
アレクサンドル・タローは25年に及ぶキャリアを通じ、クラシック音楽界における唯一無二の地位を築き、フレンチ・ピアノの担い手として活躍している。クーラン、バッハ、スカルラッティからモーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、ショパン、ブラームス、さらにラフマニノフや20世紀の著名フランス人作曲家にいたる幅広いレパートリーを録音したソロ・アルバムは25枚を超え、そのほとんどが主要音楽専門誌の賞に輝いている。

また、演劇制作者、ダンサーなどクラシック音楽以外のジャンルの音楽家たちとのコラボレーションを通じて、多彩な芸術的試みにも挑んでいる。

ソリストとして、最近ではバイエルン放送響、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、フィラデルフィア管など世界の一流オーケストラと共演。世界の主要なコンサートホールでのリサイタルも多い。

エラート・レコーズと専属レコーディング契約を結び、活発なレコーディングを行っている。

2017年、ピアニストとしての自らの日常生活を興味深く語った著書『Montrez-moi vos mains』を出版。2021年、フランスの音楽大賞ヴィクトワール・ド・ラ・ミュージック・クラシックより、インターナショナル・ソリスト・オブ・ザ・イヤー賞を授与された。2022年には映画音楽を特集した『シネマ』と題するCDをリリースし、2023年は4手プロジェクトに挑むなど、視野の広い活動を精力的に展開している。



ジャン・ドゥルスクルーズ(テノール) JEAN DELESCUSE, TENOR

1992年、リヨンにあるアトリエ・リリックにてデビューを飾り、以後リヨン国立歌劇場で活躍。オペラでは、オッフェンバック、ラヴェル、ベルリオーズ等、主にフランス作品に出演し、フランスのみならずドイツ、イタリア、カナダ等での舞台や音楽祭にも招かれる。バッハの受難曲ではエヴァンゲリストを務め、ヨーロッパのバロック音楽界において、マルク・ミンコフスキ、ウィリアム・クリスティ、ジェラヌ・レーヌらと共演するなど、定期的な活動を続けている。特にジャン・クロード・マルゴワールとは10年にわたり共演を続けた。1997年よりアレクサンドル・タローと共にエリック・サティ、マックス・ジャコブ、レーモン・クノー、フランシス・ブーランク等を用いたフランス作品の公演を欧米各地で開催している。2018年よりフランス・ドローーム県でのサウ・シャンテ・モーツァルト・フェスティバルのディレクターを務める。



鬼倉 龍大(俳優) RYUDAI ONIKURA, ACTOR

1994年生まれ、福岡県出身。アマチュアボクサーとしても活躍し、2019年全日本ボクシング選手権兼東京五輪最終選考会で準優勝を果たして引退。2020年から俳優として、中国映画「我們永不言棄」でデビュー。

2022年はフジテレビ「テッパチ!」、TBS「クロサギ」など連続ドラマに9本出演し、今注目される若手俳優のひとり。

《チケットご購入のお客様へお願い》

※新型コロナウイルス感染予防対策は、今後の状況により変更する可能性があります。

最新の状況はウェブサイトをご確認いただきますようお願いいたします。

※芸術文化センターでのご購入は、お一人様4枚までとさせていただきます。

※やむを得ない事情により、公演の中止や、出演者などが変更される場合があります。

予めご了承ください。



アクセス

